

プロジェクト名 |

HEMSによるエネルギー供給確保住宅プロジェクト

レジリエンス措置の内容
<想定するリスク（課題）およびその背景・必要性> ● 地震・豪雨・豪雪等に伴う停電やライフライン途絶により生活継続が困難 ● 在宅避難の重要性が高まる一方、従来HEMSは見える化・機器制御が中心で、災害時の事前準備や判断行動の支援機能が限定的となっているため、災害時の生活継続に支障をきたすおそれあり ● 「ユーザー操作に依存しない自動備え」と「災害時の行動支援の不足」を課題として設定
<提案・解決策> ● 平常時：エネルギー設備統合管理により、見える化・需要予測に基づく制御とデータ蓄積を実施する 【手法】HEMS+クラウド連携 【適用範囲】一戸単位 ● 発災時：気象警報をトリガーに蓄電池・給湯を自動確保し、停電前に生活継続に必要なエネルギーを確保する 【手法】気象警報連動 【適用範囲】一戸単位 ● 発災直後：放電可能時間表示と情報提供により電力を適正配分し、生活機能維持を支援する（限られた電力の計画利用により生活維持時間の最大化に寄与） 【手法】HEMS表示+独自サイト(スマートハイムFAN)連携 【適用範囲】一戸単位 ● 復旧・回復期：日常システムを継続利用し、設備状況把握と生活復旧を円滑化する 【手法】HEMS活用 【適用範囲】一戸単位

提案内容の先導性	提案内容の実現可能性	提案内容の普及可能性
・ 停電後の行動判断まで支援するHEMSであり、従来と本質的に異なる ・ 自動備えと行動支援を一体化 ・ 生活継続確保に資する	・ 既存設備活用により実現性が高い ・ 市場実装済技術を用いており導入が容易	・ 日常利便性と防災性を両立 ・ 自動化により幅広く適用可能

効果検証の方法	
通常の方法 ・操作履歴等の分析により継続利用性を確認する ・クラウドによる設備利用データを収集・分析を行う	災害が発生した場合に、特別に実施する方法 ・気象警報連動機能の発動状況を検証する ・停電時の電力利用および放電可能時間表示の活用実態を評価する ・居住継続・生活継続の実現状況を総合評価する